令和６年９月４日（水）
島根県教育庁文化財課古代文化センター
担当者　目次謙一 専門研究員
TEL　0852－22－6726

月山富田城の城下町遺跡で石見銀山産と推定される切銀を確認

古代文化センターでは、テーマ研究「中世山陰の戦争と地域社会」（令和３～５年度）の一環として、富田川河床遺跡（安来市広瀬町）の出土品を再調査し、石見銀山産の銀が使われたと推定される１点を含む切銀４点を新たに確認しました。

１　再調査の概要

⑴　**調査対象の出土品**　富田川河床遺跡（安来市広瀬町に所在する尼子氏、毛利氏、吉川氏、堀尾氏の居城「月山富田城」の城下町遺跡。寛文６（1666）年の水害で廃絶）において、昭和 55～57 年度の第６～８次調査で出土した出土品

⑵　**調査方法**　出土品から切銀４点を抽出した。その成分調査を鳥越俊行氏（奈良国立博物館保存修理室長／石見銀山遺跡客員研究員）に依頼し、令和５年に携帯型蛍光 X 線分析装置で実施

⑶　**主な確認内容**　※銀の産地推定は成分調査等の結果に基づく

	切銀①	切銀②	切銀③	切銀④
銀産地（推定）	石見銀山	伯州銀山	伯州銀山	
時　期	戦国時代（16 世紀後半）から江戸時代初期（1666 年）			
成　分	銀と鉛などのほか微量のビスマス	銀と鉛などのほか微量の金	銀と鉛などのほか微量の金	銀と鉛などのほか微量のビスマス
特　徴	石州銀の切遣い	円盤状の灰吹銀を切遣い	円盤状の灰吹銀を切遣い「米判」の極印	分銅形の極印内部の文字は「出雲」の可能性あり

２　成果の意義

- 複数枚の切銀が発掘調査で出土したのは全国初
- 富田川河床遺跡のような城下町の遺跡で、流通貨幣の切銀の確認は全国初
- 尼子・毛利氏の石見銀山、吉川氏の伯州銀山といった大名の鉱山領有と、各鉱山の産銀による銀貨製造、城下町での銀貨流通に関する重要な成果となった

３　企画展「山陰の戦乱－月山富田城の時代－」（成果の公開）

- 期間　令和 6 年 10 月 11 日（金）～12 月 8 日（日）
- 会場　島根県立古代出雲歴史博物館（島根県出雲市大社町杵築東 99-4）

別紙

１　発掘調査で切銀が出土した遺跡

１）石川県加賀市田尻シンペイダン遺跡：「永」字極印切銀　１点 1978 年調査

２）長崎県西海市西海町横瀬郷：無刻印切銀　１点 2021 年調査

３）島根県安来市広瀬町富田川河床遺跡:極印切銀･無刻印切銀　４点 1980~82 年

２　名称の解説

- 称量銀貨：額面の価値が定められておらず、それぞれの実際の重量で価値が決まる貨幣。
- 丁銀：日本国内で主に商取引に使われた、戦国時代後期から明治維新まで流通した銀貨。呼称は棒状の銀塊という意味の鋌銀が挺銀を経て変化したもの。
- 切銀：丁銀を使用する際に、貨幣として必要な重さになるようタガネで切断したものが切銀。丁銀を切銀に変えて使うことを切遣いと呼んだ。
- 灰吹銀：銀山で採掘した銀鉱石を灰吹法で精錬したもの。
- 伯州銀山（日野銀山、大倉鉱山）：鳥取県日南町所在の銀鉱山。1595 年亀井茲矩により開発され、後に豊臣秀吉の命により吉川広家に経営権が移されたという。
- 極印：丁銀の表側に刻まれた、小銀、石州、宝などの文字や記号を表す印。
- 極印切銀：津軽銀、越後銀、佐渡銀、米沢銀、加賀銀、因幡銀、出雲銀、小倉銀、石見銀などが確認されている。
- 無刻印丁銀：文字や意匠が刻まれていない丁銀の総称。
- 槌目：丁銀の表面に残る横方向の窪み。裏面は石目と言ってざらついた状態。
- 灰吹法：銀鉱石を細かく砕いて加熱し、鉛との合金（貴鉛）にしたものを灰の上で熱して鉛と銀を分離し、銀を取り出す。戦国時代（1533 年）に石見銀山に導入され国内の鉱山に広まった。

表１　富田川河床遺跡出土切銀一覧表（最大数％の誤差を含む）

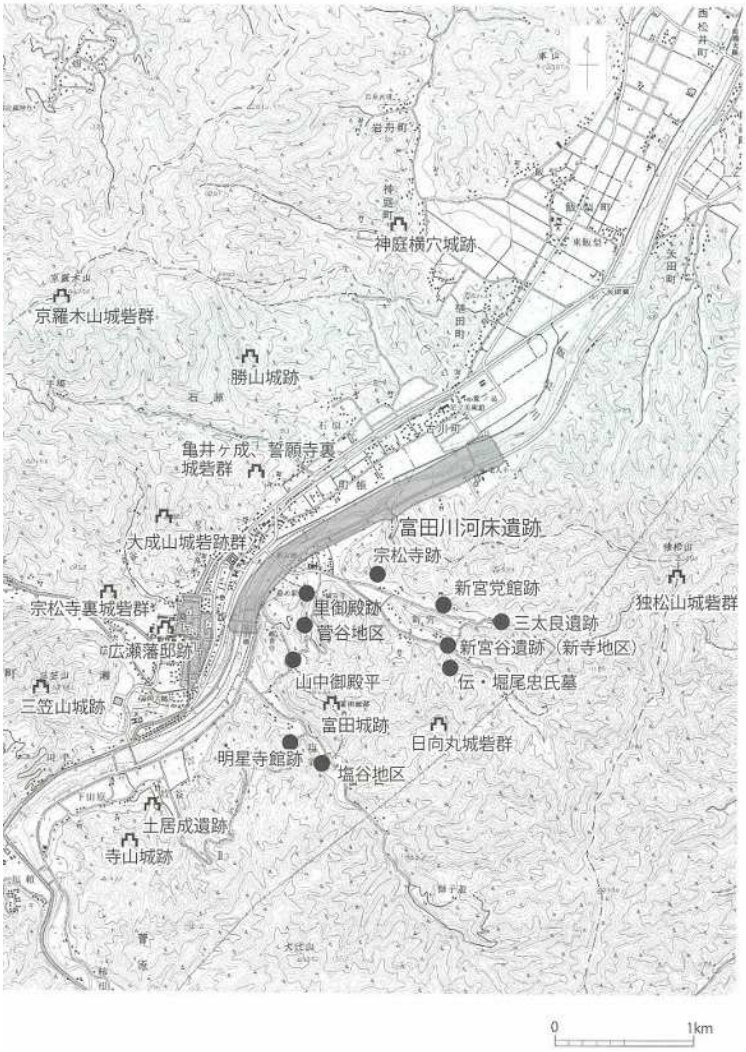
名称	寸法	厚さ	重さ	Ag 銀 (%)	Cu 銅 (%)	Pb 鉛 (%)	Bi ビスマス	Au 金 (%)	Fe 鉄 (%)	備考
①　古丁銀切銀	4.3 ×1.7cm	0.5 ㎝	20.93g	93	4	少量	微量		少量	槌目
②　灰吹銀切銀	1.7 ×1.5cm	0.4 ㎝	8.13g	96	少量	微量		少量	少量	凹み
③　灰吹銀切銀	3.5 ×3.5cm	0.6 ㎝	49.1g	98	少量	少量		少量	少量	極印「米判」
④　灰吹銀切銀	1.4×5.5cm	0.6 ㎝	28.17g	55	13	22	微量		7	極印「出雲」

富田川河床遺跡出土切銀　①６次調査、②７次調査、③④８次調査

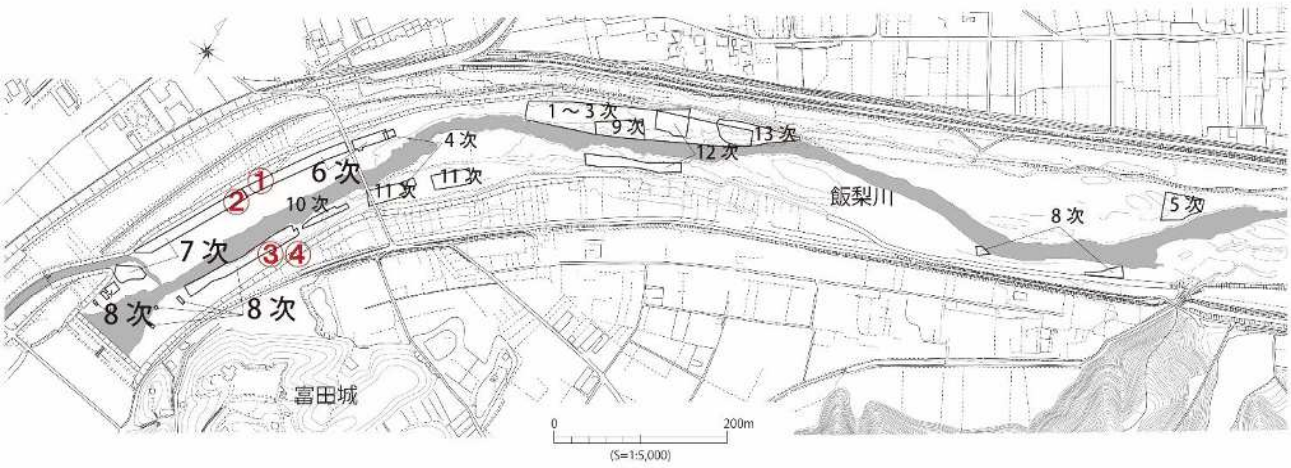
写真：石州丁銀（徳島県下伝来）
島根県古代出雲歴史博物館刊行
「石州銀展」図録より転載

第１図　石州丁銀に切銀①を重ねた図

切銀③（米判）、切銀④（分銅・出雲）極印



第２図　富田川河床遺跡周辺の主な城館遺跡



1次～3次（昭和49年～51年）　4次（昭和51年）　5次（昭和53年）　6次（昭和55年）　7次（昭和56年）　8次（昭和57年）
9次（昭和60年-①）　10次（昭和60年-②）　11次（昭和61年）　12次（昭和62年）　13次（昭和63年）

第３図　富田川河床遺跡の調査区と切銀出土位置

第４図　関係遺跡位置図

月山富田城 略年表

時代		城主	年代	主な出来事
中世	室町時代 戦国時代	尼子氏	天文9年(1540)	尼子詮久(晴久)、安芸国毛利氏の吉田郡山城を攻める
			天文11年(1542)	周防国の大内義隆、富田城を攻める 種子島にポルトガル人が上陸し、鉄砲を伝える
			天文18年(1549)	フランシスコ・ザビエルがキリスト教を伝える
			天文21年(1552)	尼子晴久、8か国(出雲・隠岐・伯耆・因幡・備前・備中・備後・美作)の守護に任命される
			天文23年(1554)	晴久、叔父である尼子国久率いる新宮党を粛清する
			永禄8年(1565)	毛利元就、富田城を攻める
			永禄9年(1566)	尼子義久、富田城を開城して毛利氏に降伏する
		毛利氏	永禄12年(1569)	尼子勝久・山中鹿介らの軍勢が出雲国に進攻し、富田城に迫る
			永禄13年(1570)	毛利氏が出雲国布部合戦において尼子軍を破る
近世	安土桃山時代		天正5年(1577)	織田信長家臣の羽柴秀吉が、尼子勝久らを播磨国上月城に入れる
			天正6年(1578)	毛利氏の攻撃により上月城が落城し、尼子勝久は自刃する 山中鹿介は備中国で殺害される
			天正10年(1582)	本能寺の変がおこる
			天正11年(1583)	豊臣秀吉、大坂城の築城を始める
			天正13年(1585)	富田城主を務める毛利元秋が没する
			天正18年(1590)	豊臣秀吉、全国を統一する
		吉川氏	天正19年(1591)	吉川広家、富田城に入城する
			文禄元年(1592)	吉川広家、朝鮮出兵のため富田城から出陣する
	江戸時代	堀尾氏	慶長5年(1600)	関ヶ原の戦い後、吉川広家は周防岩国に転封となる 堀尾吉晴・忠氏親子が富田城に入る
			慶長8年(1603)	徳川家康が征夷大将軍に任じられる
			慶長9年(1604)	堀尾忠氏が没する
			慶長16年(1611)	堀尾氏が居城を松江城に移す
			元和元年(1615)	大坂夏の陣がおこる。一国一城令が出される
		松平氏	寛文6年(1666)	松平氏により広瀬藩が成立する 富田川の洪水により富田城下町が川底に消える

富田川河床遺跡と月山富田城跡（西から／勝山城より／令和 5 年撮影）

富田川河床遺跡と第 6 次調査区（東から／昭和 55 年撮影）